

国民の世論と運動で、「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

ほっかいどうの社会保障

2013年9月5日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

生活保護不服審査請求目標の1000名超える 全国1万めざし、さらに多くの方に働きかけましょう。

全国的に生活保護の不服審査請求のとりくみが広がっています。北海道では、9月5日午前時点で1004名となり、目標の1000名を超えました。道内には、不安や不満を感じている方がたくさんいます。全国的には1万人をめざしています。さらに広げましょう。道内各地のとりくみを紹介します。

勤医協小樽診療所 患者さん宅を訪問し、9人が決意 深刻な実態明らかに

勤医協小樽診療所でも、生活保護を利用している患者さんに不服審査請求を呼びかけています。診療所では、民医連の生活保護実態調査（10数件）や、今年度の北海道民医連看護介護研究集会に、生活保護問題をテーマにした発表する準備のための訪問活動などを通して、「冬、調理の時だけ暖房をつけ、あとはふとんの中で生活する」など、深刻な生活実態を目の当たりにしてきました。9月3日、看護師が9軒を訪問し、9人全員が審査請求を決意しました。



○病気で働けない40代の女性は「1日2食で、肉は食べられません。もちろんすしなど食べたことはありません。水道代も電気料金も上がり、これからどのように生活するか不安です」。

○70代の女性は「もち代（期末一時扶助）が削られると大変。孫へのお年玉も出せなくなり、今から、生活費を削り少しずつ貯めることを考えています。灯油代（冬期加算）が削られたらどうしよう」小樽では、多くが家賃月1万2千円の木造モルタルのアパートに住んでいます。冬はすきま風もあり、暖房代が嵩みます。

○日当たりの悪い家で、午後3時半、電気をつけないうえ、真っ暗の中で、書類を書いてもらったそうです。

道北勤医協 「10年以上服を買ったことがなかった」「国に申しわけない」 決意者宅訪問

道北勤医協で、生活保護を利用している患者さんや利用者さんへ審査請求の取り組みを紹介していますが、審査請求を決意した方のお宅を訪問して、審査請求手続きの説明をはじめました。

ある高齢夫婦宅では、「服も10年以上買ったことがなかったが、入院したときリハビリがあり、パジャマで行けないので、夫に1000円の服を探して来てもらいました。これから、またさらに下がったら本当に生活が苦しいです」と話してくれたそうです。また、「国からお金をいただいて、こんなことをいうのは、申し訳ないけれど」と何回も繰り返したそうです。訪問した職員は「申し訳ないと思いながら生活しなくてもいいんだよ」と伝え、審査請求書に名前を記入したそうです。

札幌市へ 子ども・子育て会議の公開、意見表明の機会など要望を

29日、子ども・子育て会議基準検討部会は、国が新たに支援しようとしている「小規模保育事業」（定員6～19人）について、保育従事者の半数以上が国家資格を持っていればよいとする認可基準を決めました。現行の認可保育所（定員20人以上）が全員の資格者とされているのに対し、きわめて低い基準となります。

こうした動きの中、各自治体でも子ども・子育て会議が設けられていますが、札幌保育連絡会は、札幌市に対して、子ども・子育て支援新制度に関する要望書を提出しました。子ども・子育て会議の公開や意見表明の機会など5項目の要望書を提出しました。



「どの子にもよりよい保育の保障を」 秋の運動スタート集会

講演 ここが問題！子ども・子育て支援新制度 ～このまま実施させないためにいま必要なこと～

講師 実方 伸子さん（全国保育団体連絡会事務局長）

日時 9月6日（金） 18:30～20:30 場所 東区民センター・大ホール